

駐標下、兵庫頭聞供膳、宰相中將經房、東宮右近中將實成、六番了、入夜不馳遣御馬之、射出馬等同停
 之、戌時御寢殿、東宮渡西對給、以賴定朝臣召余、次召王諸卿、次以實成朝臣、東宮可參上給、有御消息
 召參上給、供御膳、置物机二、懸盤四脚、有六二止右衛門督陪膳、東宮御膳實成朝臣、銀高坏二脚、深折
 敷賜王卿膳、次召伶人、御遊數曲、此間雨止、次諸司諸衛女官賜祿物、次王卿納言已上女裝束、參議綾
 樹袴殿上人四位白袴一重袴一具、五位白袴一重、六位童袴、此間召右大臣御座下、有賴給一階之宣
 有賴出於中庭拜舞、獻送物、箏御并ニ春宮大夫、琵琶右衛門督、和琴源中納言、御入東宮立給御西對
 御送物笙笛等也、左衛門督權中納言取之、乘輿出西門、中宮大夫承令旨、仰啓陣可令入東宮御車由
 而東宮於門外立御車云々、東宮殿上人帶刀等賜祿、女方、典侍御乳母女裝束絹八疋、内侍綾樹袴絹
 五疋、命婦白袴褂一重袴絹四疋、女藏人白褂一重絹三疋、自餘女官等各有差、帝又見百練抄、
〔榮花物語卷十一〕九月二年長和にもなりぬれば、行幸三のこど、けふあすのほどにいそがせ給ふこ
 どいみじみや宮三妍子中のにようばうのなりいみまきにかんのとの三后威子の御かた、どの、
うへ長藤原道妻倫子の御かた、われもくどの、まることいみじ、ふねのがくなどいみじくとこのへ
 させ給へり、行幸のありさまみなれいのさほうなればかきつゝくまじ、おほみやの東宮一條の
 むまれさせ給へりしものちの行幸、たゞそのまゝのありさまなり、どの、ありさまいみまきくおも
 しろし、なかじまのまつのつたのもみぢなど、つねのとしはいとかうしもあらねど、よのけしき
 にまたがふにや、いみじくさかりに、いろくめでたくみゆるに、まましうそゝるさむし、うへ
 の御らんするに、御めもおよばずめでたうおぼしめさるゝに、ふねのがくまのまひいでたる
 など、おほかたこのこと、はおぼしめされず、いみじく御らんせらる、まつのかせきんをまら
 ぶるにきこえ、よろずおもしろくふきあはせたり、みすぎはのにようばうのなり、いへばえなら
 ぬにはいどもなり、いらせ給ていつしかとわかみや三禎子皇をいづらはと申させ給へば、どの